

令和 5 年度 経済環境委員会 第 1 回議会報告会

令和 5 年 1 1 月 2 1 日

委員長 【 林 義 浩 】

議会報告会実施計画	委員会 テーマ	地域経済の活性化について			
	テーマ 設定目的	コロナ禍後の市内経済の活性化について、スポーツや農業、まちづくりなど様々な視点から調査研究し、本市の地域振興、経済発展につなげる。			
	対象団体	スポーツに携わる市民			
	調整事項	実施日	令和 5 年 1 1 月 7 日 (火)		
		時間	午後 7 時 0 0 分	～	午後 9 時 0 0 分
		会場	市役所東館第 1・2 委員会室		
出席 予定者		経済環境委員会委員 7 名 スポーツに携わる市民 27 名			
事前準備	役割 分担	挨拶・基調報告・講評：林委員長 司会進行：小林副委員長 グループワーク：全員 受付：黒澤委員、辻川委員、小林委員 案内：杉山委員、高橋委員、永井委員			
	資料	基調報告資料：林委員長			
備考	行政視察した内容を基調報告した後、3 グループに分かれ、ワークショップ形式で、問題や課題の抽出、また共有して取り組んでいくべきこと等を意見交換する。				

議会報告会実施報告	実施日時 参加者	実施日	令和 5 年 1 1 月 7 日 (火)		
		時間	午後 7 時 0 0 分	～	午後 9 時 0 0 分
		会場	市役所東館第 1・2 委員会室 ほか		
		当日 参加者	経済環境委員会委員 7 名 スポーツに携わる市民 24 名		
	実施内容 概 要	報告会テーマ スポーツの チカラ × まちおこし 委員会の基調報告をした後、ワークショップ形式で意見交換を行う。 3つのグループに分かれ、活発な意見交換を行い、市に働きかけていくこととし、報告会を終了した。			
報告書	報告書作成	委員全員提出、委員長まとめ		詳細は別紙	
	市議会だより	林委員長		原稿は後日	
備考					

別紙様式 2

経済環境委員会 議会報告会実施報告書

開催日時	令和5年11月7日(火) 午後7時00分～午後9時00分	
開催場所	市役所東館第1・2委員会室 ほか	
テーマ	スポーツのチカラ×まちおこし	
出席議員	司会者	小林 恵美子 (副委員長)
	報告者	林 義浩 (委員長)
	その他	ワークショップのグループ A：林 義浩・辻川 公子・杉山 護 B：小林 恵美子・永井 誠一 C：黒澤 佳壽子・高橋 利典
参加人数	経済環境委員会委員 7名 スポーツに携わる市民 24名	
実施内容	<p>「地域経済の活性化について」を年間テーマとし、行政視察をした内容を基調報告した。</p> <p>その後、3グループに分かれ、テーマを基に以下の論点について、ワークショップ形式で、共有して取り組んでいくべきこと等を意見交換した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基調報告の感想 2. 本市の現状と課題 3. まちおこしの具体的方策・戦略 	
主な意見・提言等	別紙のまとめ及びアンケート集計結果のとおり。	

以上のとおり、報告します。

令和5年11月21日

御殿場市議会議長 様

御殿場市議会 経済環境委員会 委員長 林 義浩

経済環境委員会 議会報告会まとめ

11月7日、市役所東館3階第1・2委員会室において、スポーツに携わる市民24名をお招きし、委員会の基調報告と「スポーツのチカラ×まちおこし」をテーマにワークショップを行いました。

ワークショップでは、3つのグループに分け、市民の皆様から様々なご意見を頂戴し、ともに議論いたしました。

1. 全体の所感

- ・スポーツに携わる市民24名の出席でした。その後のワークショップを考慮すると、適正な人数であった。
- ・6箇所の基調報告はゆとりが少なく、詰め込み過ぎの感じがした。
- ・議員側としては1箇所で、勉強したい項目がたくさんあり、効率的に思えたが、市民側からすると問題点がぼやけて見えた様子が受け取れた。

2. 本市の現状と課題

- ・『スポーツタウン御殿場』の目的が、スポーツ関係者にも伝わっていなかった。
- ・市民のスポーツ参加率対策が不十分である。
- ・スポーツツーリズムの受け皿（宿泊等）が不十分である。

3. まちおこしの具体的方策・戦略

- ・スポーツを起点としたまちおこしの拡大
- ・合宿等における宿泊・食事の提供の拡大（コミュニティ供用施設・体育館・企業の施設活用など）
- ・スポーツ×グルメ・観光・農業体験など、スポーツを通じて市民や本市の魅力を伝える。

以上、3点を中心に、提言を行うものといたします。



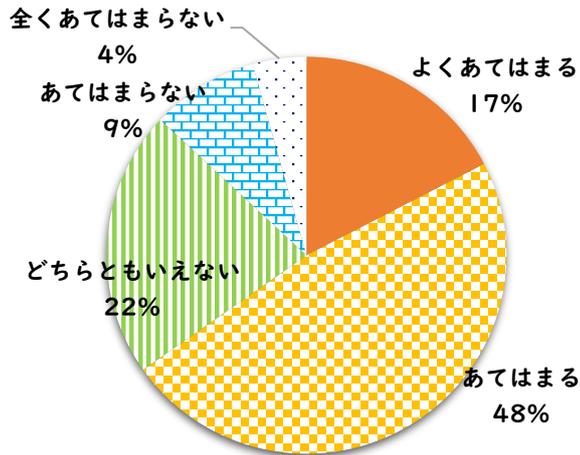
御殿場市議会経済環境委員会 議会報告会アンケート結果

日時：令和5年11月7日（火）

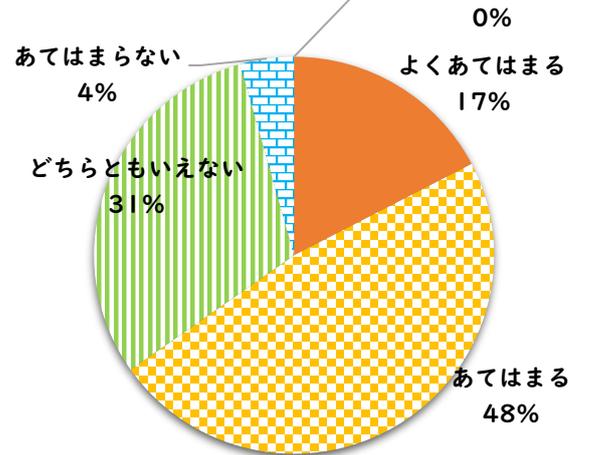
午後7時～午後9時

参加者：24人（回答者23人）

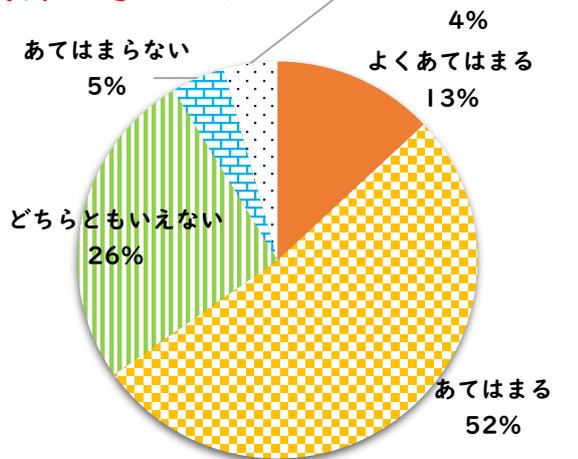
テーマは適切であったか



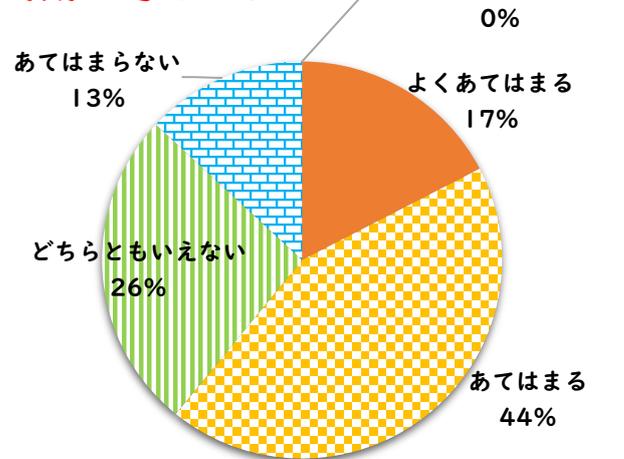
運営は適切であったか



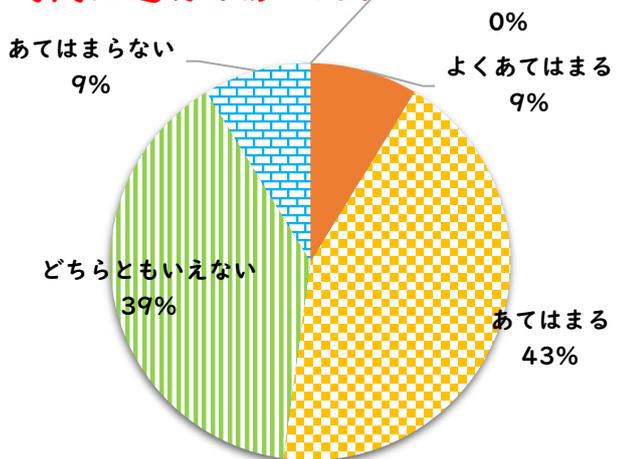
資料は適切であったか



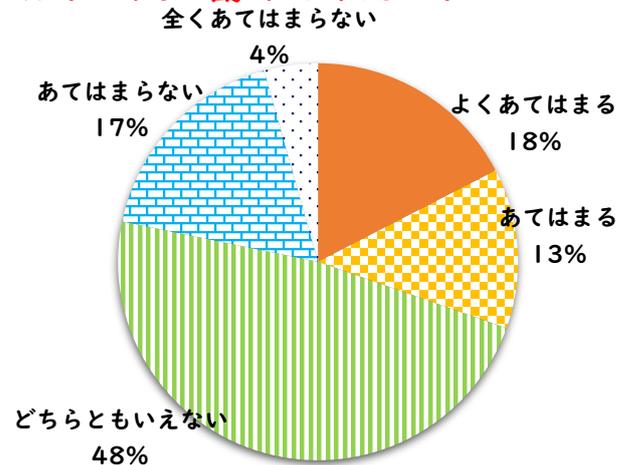
時期は適切であったか



時間は適切であったか



ほかの人に勧めてみたいか



報告会に関して改善した方がよい点・ご要望等

- ・是非、報告会の内容を広報紙に掲載し、市がこれから「スポーツのチカラ×まちおこし」で何をするのか市民に知ってもらうことが第一歩。
- ・報告会に初めて参加した。このような報告会は、ほかにもやられているのか存じていなかったが、実施することはとても大切である。よって、5段階の評価は比較ができず「どちらともいえない」とした。
- ・今回のような「スポーツタウン御殿場」に向けた民間との話し合いを数回やってもよい。
- ・各種団体の長を集めるのはよいが、公的役職者や年齢層が高いので若者を増やした報告会にした方がよい。
- ・有意義な視察をしていただきありがとうございます。市の発展のため、市民のために還元していたければ幸いである。
- ・視察はよく研究されている。議会を通じ良い提案をしてください。
- ・視察を参考に現状を捉えて進めていってほしい。
- ・視察内容が多く、濃くならないのが残念（スポーツ・民泊・水・道の駅・地域活性化）。
1個ずつ話し合えたらよい。
- ・内容的に基調報告の時間がもう少し必要。
- ・グループワークの内容がどのように反映されるのか気になる。是非、各グループの意見をまとめてもらい、今後に活かしていただきたい。
- ・各種団体の役員が集まってやっているが、討論のビジョンをもっと明確に決めてから始めた方が話が進めやすい。最終的な目的は決定できないが、道筋を示すまでしたい。
- ・視察をしてきて、御殿場市がどのような方向で、どのように進めていきたいかを目的を含めて話していただいた後にグループワークの方がよい。
- ・グループワークのテーマ提案内容を事前にお知らせしていただけると、少しは考えた意見が言えた。
- ・テーマが大きすぎて話が具体化しない。理想論で終わってしまう。つまり、実現が難しいのではないか。
- ・グループワークの時間が足りない。
- ・あまりにも立場が違いすぎるため、参加者を検討した方がよい。私は呼ばれる立場ではない。
- ・時間をもっと早い時間にしてほしい。（2件）
- ・実施時間の変更

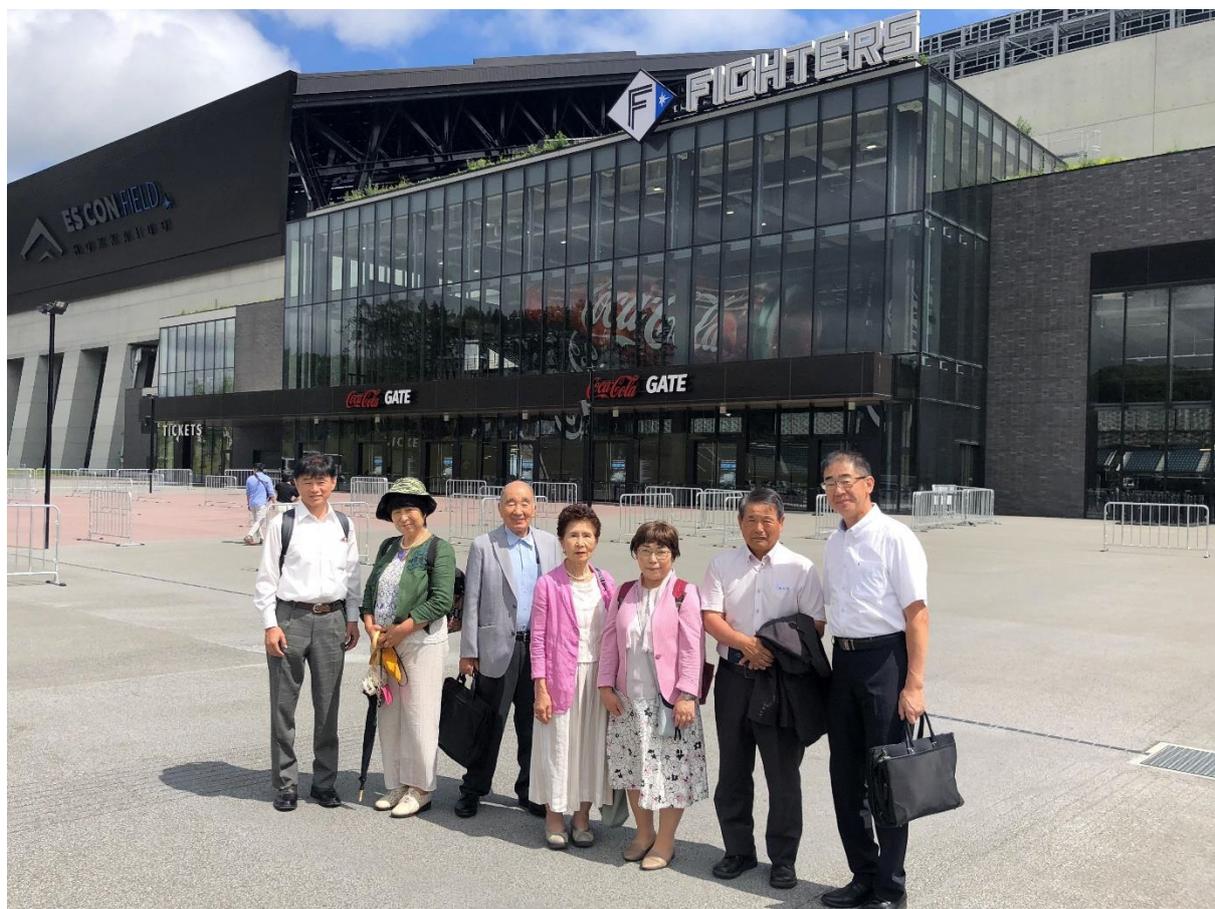
議会へ伝えたいこと

- ・今回のテーマの基にある「スポーツタウン御殿場」が分かりづらいという意見は多く聞かれる。オリンピックレガシー（自転車・空手）ばかりがクローズアップされ、予算もそちらばかりに費やされている。「スポーツタウン御殿場」というアウトラインがひとり歩きしないように議会において具体的な議論をしていただきたい。
- ・「スポーツタウン御殿場」（スポーツによるまちおこし）と言うが、市として具体的な項目を表明していただきたい。
- ・近年、ますますサイクリストが本市に来ており、また自転車をレンタルしたいとの要望がありますが、現状ではママチャリしかレンタルできない状況です。ほかのほとんどの市町ではロードバイクをレンタルできるので、ロードバイクとサイクルステーションを設置してほしい。
- ・サイクリングロードは市道（交通量が少なく安全な道）を活用し、マーク表示をしてほしい。条例で自転車のヘルメット使用を決議してほしい。
- ・施設の充実
- ・会場や広場・公園等の施設には利用制限があるが、これを解除して自由に使える施設にしてほしい。当然主催者の責任は重要。
- ・行政のビジョン（熱意）コンセプトは大事！日々市民にその熱意と方向性を知ってもらう（御殿場市はこう変わる、こう変えます等）
- ・富士山・花・水を活用した御殿場をPRしてください。
- ・もっと地域に目を向けてほしい。今回のような大きな話もよいが、一般市民は普段の地域活動に四苦八苦している。地域活動なくして市政なし。
- ・地域でできることから一步一步考えてください。
- ・市政をどのようにしたいのか全く感じない。市民のための政策を早急に作成していただきたい。
- ・ほ場整備後、何年・何十年経過しても宅地化ができない等の解消はできないか。宅地を求めたの元々の地元の若者の他地区や他市町への流出もあり、将来的な人（市民）の確保を考えていただきたい。
- ・ほ場整備が進んでいるが、自然環境が悪くなっている。高根地区など小川がなくなり生物がいなくなっている現状を見てほしい。
- ・頑張ってください。ありがとうございました。

御殿場市議会 経済環境委員会

議会報告会

「スポーツのチカラ×まちおこし」



北海道エスコンフィールドにて



令和5年11月7日（火）

御殿場市議会経済環境委員会 議会報告会 次第

日 時 令和5年11月7日(火)

午後7時00分～

場 所 御殿場市役所東館 3階

第1・2委員会室

進行：【副委員長 小林 恵美子】

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 委員自己紹介

4 基調報告(30分)

【委員長 林 義浩】

5 グループワーク(50分)

テーマ：「スポーツのチカラ×まちおこし」

6 各グループの結果発表(各5分)

7 委員長講評、お礼

8 閉 会

経済環境委員会 議会報告会 参加（依頼）者一覧表

※順不同・敬称略

団 体 名	職 名	氏 名
御殿場市スポーツ協会	会長	山口 力
	副理事長	杉山 衛
御殿場市空手道連盟	会長	菊池 基
富士山ごてんばサイクリングプロジェクト	会長	関口 章
御殿場ベーカリービケット	店長	米村 俊
NAKA-Mö l Gotemba	代表	田代 公一
御殿場地区体育振興会	会長	伊倉 常伸
富士岡地区体育振興会	会長	大深 浩司
原里体育協会	会長	土屋 恒
玉穂体育振興会	会長	村本 靖
印野健友クラブ	会長	勝間田 信久
高根地区スポーツ振興会	会長	芹澤 利之
御殿場総合サービス株式会社	総合体育施設 施設長	清水 秀雄
時之栖ツアーズ株式会社	シニアマネージャー	加藤 弘一朗
太平洋クラブ御殿場コース	渉外部長	渡辺 隆三
富士山ツーリズム御殿場実行委員会	事務局長	田近 義博
株式会社シルバースポーツ	オーナー	土屋 建城
PARKサイクルライフ	代表	池谷 隆
		神馬 有貴
御殿場市商工会	会長	杉山 芳三
	副会長	芹澤 孝壽
御殿場市観光協会	会長	山内 剛
	事務局長	芹澤 明彦
富士伊豆農業協同組合 御殿場地区本部	地区管理課長	山口 紀一
御殿場市スポーツ推進委員会		(欠席)
High Ambition2020jp.		(欠席)
富士カントリークラブ		(欠席)

グループワークメンバー構成

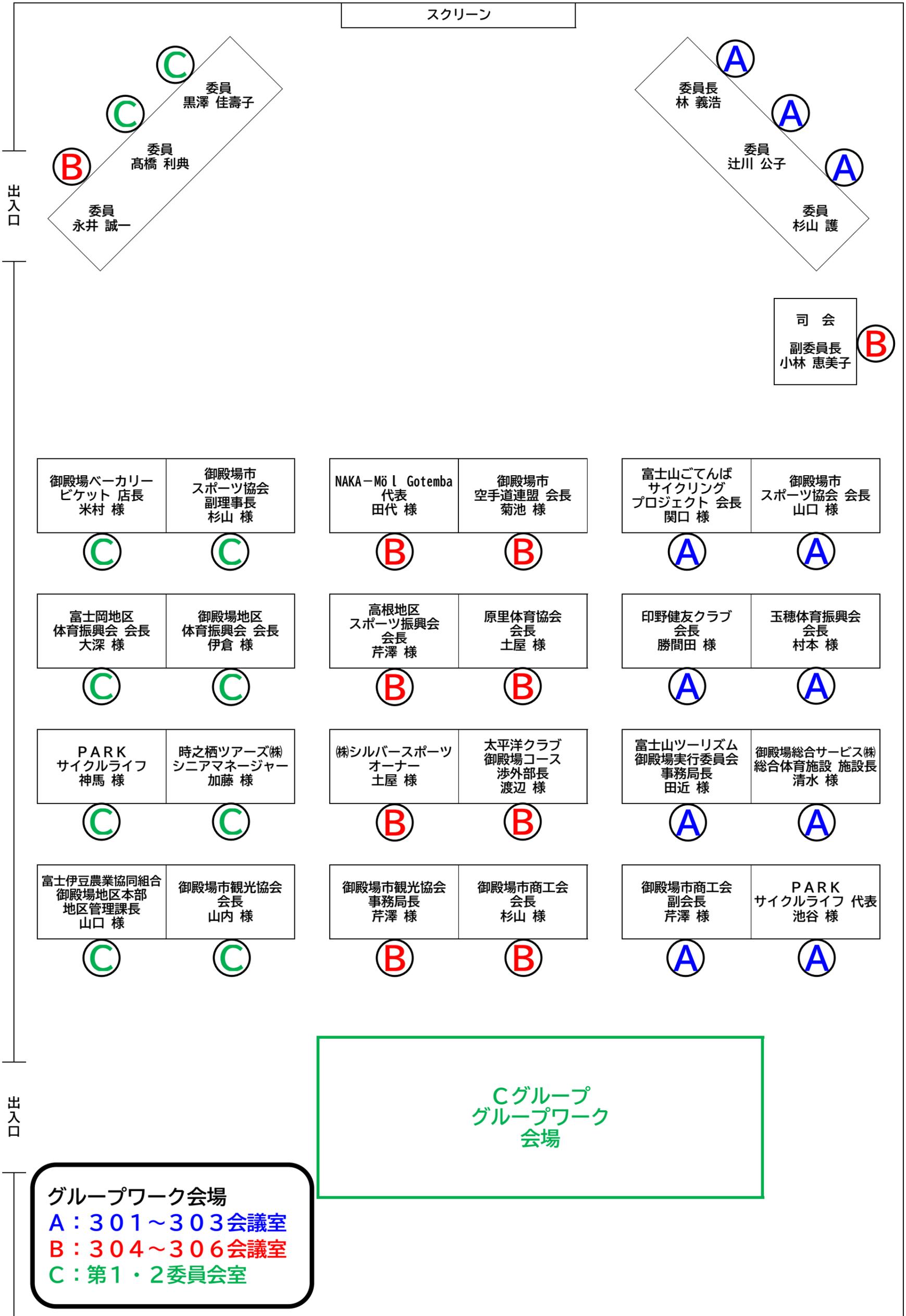
	団体名・役職名	氏名
Aグループ	御殿場市スポーツ協会 会長	山口 力
	富士山ごてんばサイクリングプロジェクト 会長	関口 章
	玉穂体育振興会 会長	村本 靖
	印野健友クラブ 会長	勝間田 信久
	御殿場総合サービス株式会社 総合体育施設 施設長	清水 秀雄
	富士山ツーリズム 御殿場実行委員会 事務局長	田近 義博
	PARKサイクルライフ 代表	池谷 隆
	御殿場市商工会 副会長	芹澤 孝壽
	委 員 長	林 義浩
	委 員	辻川 公子
	委 員	杉山 護

	団体名・役職名	氏名
Cグループ	御殿場市スポーツ協会 副理事長	杉山 衛
	御殿場ペーカリービケット 店長	米村 俊
	御殿場地区体育振興会 会長	伊倉 常伸
	富士岡地区体育振興会 会長	大深 浩司
	時之栖ツアーズ株式会社 シニアマネージャー	加藤 弘一朗
	PARKサイクルライフ	神馬 有貴
	御殿場市観光協会 会長	山内 剛
	富士伊豆農業協同組合 御殿場地区本部 地区管理課長	山口 紀一
	委 員	黒澤 佳壽子
	委 員	高橋 利典

※順不同・敬称略

	団体名・役職名	氏名
Bグループ	御殿場市空手道連盟 会長	菊池 基
	NAKA-Mö l Gotemba 代表	田代 公一
	原里体育協会 会長	土屋 恒
	高根地区スポーツ振興会 会長	芹澤 利之
	太平洋クラブ御殿場コース 渉外部長	渡辺 隆三
	株式会社シルバースポーツ オーナー	土屋 建城
	御殿場市商工会 会長	杉山 芳三
	御殿場市観光協会 事務局長	芹澤 明彦
	副 委 員 長	小林 恵美子
	委 員	永井 誠一

席 表



MEMO

MEMO content area with horizontal dotted lines.

御殿場市議会 経済環境委員会

委員長	林	義	浩
副委員長	小林	恵美子	子
委員	黒澤	佳壽子	子
委員	辻川	公	子
委員	杉山		護
委員	高橋	利典	のり典
委員	永井	誠	せい誠

経済環境委員会 議会報告会 基調報告



令和5年11月7日

F.VILLAGE

RECREATION VILLAGE



出典：北海道ボールパークFビレッジ

前期 視察先及び視察内容

1. 北海道北広島市
ボールパーク構想について
2. 北海道札幌市
さっぽろグローバルスポーツ
コミッションについて
3. 北海道夕張郡長沼町
グリーン・ツーリズムについて
4. 北海道恵庭市
花の拠点「はなふる」について



出典：北海道ボールパークFビレッジ

参加者

委員長

林 義浩

副委員長

小林 恵美子

委員

黒澤 佳壽子 辻川 公子 杉山 護

高橋 利典 永井 誠一

事務局

主幹 桐生 守

北海道北広島市（7月19日） ボールパーク構想について

《目的》

「スポーツタウン御殿場」の推進に役立てる。

出典：北広島市



民間業者が主体となって、世界で初めての事業を提案した。
 北広島市は、これを好機と捉え市長の判断により誘致を決断し、住民説明会を行い、市民に協力を求めた。
 民間業者は、600億円をかけて球場を2年で完成させた。
 北広島市は、固定資産税・都市計画税を10年間無料化、市街化調整区域から市街化区域へ変更を掛けるなど徹底して民間企業を応援した。行政と民間業者が一体となってこのプロジェクト成功に向け努力した。



出典：北広島市

《考察》

★ボールパーク構想に係わる行政サポート

市は固定資産税・都市計画税を10年間無料化、市街化調整区域から市街化区域へ変更を掛けるなど徹底して民間企業を応援し、民間と一体となり、このプロジェクトを成功させたことを評価する。

★単なる球場ではなくしっかりとした「ビジョン」

しっかりとした「ビジョン」があり、球場を中心に商業部分はもとより、観光・産業・スポーツ・医療等の分野において近隣市町村も巻き込みリードしていこうとする「まちづくり」の意気込みを感じた。

★スポーツツーリズム・スポーツタウン構想

本市は空手やサイクリングを中心にスポーツツーリズムを実施したり、スポーツタウンを設置したりしている。武道館建設も視野に入れていると思うが、官民連携して取り組むことはできないか検討したい。

Fビレッジの未来図



出典：北海道ボールパークFビレッジ

北海道札幌市（7月20日）

さっぽろグローバルスポーツ
コミッションについて

《目的》

「スポーツタウン御殿場」の
推進に役立てる。



スポーツツーリズムの推進



国際大会
スポーツイベント誘致

スポーツボランティア
「スマイルサポーターズ」

出典：SGSC

SGSC事務局を令和2年より札幌市スポーツ協会に移設した。
事務局長・事務局次長（2人）・事務局員（1人）（以上、札幌市職員）
専門員（3人）・民間派遣職員（1人）の合計8人体制とし、専門員の
給与を札幌市から運営費補助金として計上している。

【SGSCの目的】

北海道・札幌市の豊富なスポーツ資源を最大限活用することにより国際
競技大会や事前合宿・スポーツ関連会議等スポーツイベントの誘致・開催
支援活動を推進し、北海道・札幌市の魅力発信を図るとともに市民や団体
の多様な交流を支え、地域活性化と交流人口拡大に資すること。

【SGSC運営費】

札幌市より3,200万円、その他国際大会誘致費970万円余

活動の柱として、3つに分けて活動している。

- ①「する」国際大会・事前合宿・スポーツイベント等の誘致
- ②「みる」スポーツツーリズムの推進
- ③「ささえる」スポーツボランティア「スマイル・サポーターズ」

《考察》

スポーツ庁は、「する・みる・ささえる」といった多様なスポーツを通じてスポーツ参画人口の拡大を目指している。

★する 大会誘致、合宿、スポーツイベント

本市も宿泊が伴うと一定の予算がかかる。体育館や公民館、民間企業の宿泊・研修・運動施設などの協力が必要と考える。

★みる スポーツツーリズム

札幌市の例を見ると、観覧人数が多かったのは、アーバンスポーツ（都市型スポーツ：ボルダリング・BMX/スラックライン・パルクール・トランポリン・スケートボード・3×3など）であり、市民が見たい競技の開催も検討したい。

《考察》

★ささえる ボランティア

持続可能を考え、若年層を巻き込むため、教育現場等に派遣先を広げコミッションを説明し、スポーツと他分野をつなげる努力は評価する。

また、本市でもボランティアの登録・管理などのシステムは取り入れるべきである。（スマサポ 令和4年1, 070名）

★インバウンド誘客

本市においても、インバウンド誘客について、料金・食事・宿泊などインバウンドの要望解決も課題である。

北海道夕張郡長沼町（7月20日）

グリーン・ツーリズムについて

《目的》

グリーン・ツーリズムの推進に役立てる。



出典：長沼町観光協会



出典：長沼町

【長沼町の取り組み】 ◎主に修学旅行の学生を受け入れ

○受け入れた学生と一緒に田植えや稲刈り、雑草取り、ブロッコリーの収穫など受入れ時期に農家が実際に行っている作業を実施。食事も農家と学生と一緒に準備を行う。何も特別なことはしていない。ありのままの日常を学生に体験させている。

○長沼町を訪れた人たちとは、学校祭で長沼町産の野菜を販売したり、卒業後に長沼町に来て宿泊した農家と交流したりと息の長い付き合いを続けている。

○平成29年から海外の修学旅行生を受け入れ、インバウンド需要を取り込む。

【課題】

加盟農家の高齢化に伴い、受入農家が減少。

加盟農家：平成22年 211戸 → 令和2年 127戸

受け入れ人数：平成22年 6,068人 → 令和2年 1,434人

新規加入農家の発掘が必要。会員数減少の課題に若手を育成していく方針



《考察》

★移住促進

本市のグリーン・ツーリズムから移住定住につなげたい考え方とは違い、移住定住をあまり意識していなかった。

★教育・食育

修学旅行利用者からは好評であり、教育上、食育上でもグリーンツーリズムの経験・体験は意義が大きいと考える。

★インバウンド

インバウンドとの関わりは平成29年台湾の修学旅行生35名を受け入れた。本市も県より要望があり台湾より研修を受け入れた。アフターコロナになり、さらなる交流が期待される。

★今後の展望

本市の農家民宿は7軒であるが、長沼町のグリーン・ツーリズムを見習って経済活性化、まちおこしに意欲を上げ、今後農家民宿が増えることを望む。

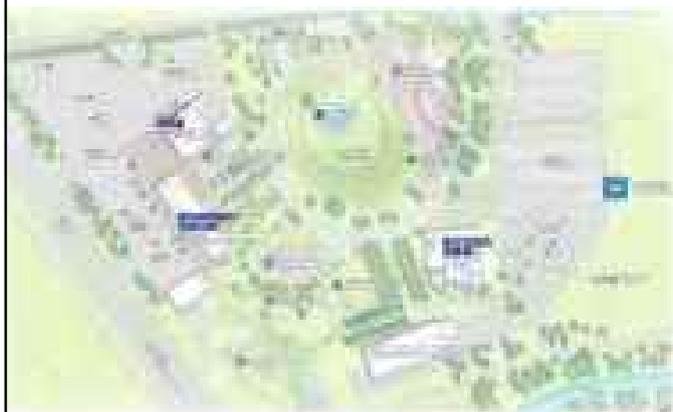


北海道恵庭市（7月21日）

花の拠点「はなふる」について

《目的》

花を拠点としたまちづくり



出典：花の拠点（はなふる）

はなふる内の「花の拠点センターハウス」にて、花と緑・観光課長の松島様 等より説明を受けた。

恵庭市は、市民活動を中心とした「花のまちづくり」が注目されていた。また、道と川の駅「花ロードえにわ」には年間100万人を超える人々が訪れていた。

しかし「花のまち」としての観光資源をオープンガーデンに依存し、旅行者が気軽に花と触れ合う公共的な場所が少ないという課題があった。市民や来訪者が気軽に触れ合える「花のまち恵庭」を体現する新たな観光拠点として道の駅複合施設「はなふる」を整備した。



名称は公募による。「花がたくさんある」という意味。

道と川の駅「花ロードえにわ」は、平成17年度に開設。令和元年度に改修工事を行った。公募により運営事業者を選定している。

農畜産物直売所「かのな」は、令和2年度にリニューアルオープン。スペースを1.5倍に増やす。

スターバックスなどは、令和2年度にパークPFIにて公募、建設し、令和3年12月オープン。20年の賃貸契約で、建物も事業者負担である。宿泊施設「マリオット北海道えにわ」は、平成30年度にパークPFIにて公募、建設し、令和4年5月にオープン。

その他、7つのエリアに分かれたガーデンエリアやRVパーク、子どもの屋内遊び場「りりあ」などが整備されている。



《考察》

世界文化遺産富士山に抱かれる本市としては「花」との相性は抜群と考える。

★道の駅などの複合施設

「はなふる」は花をテーマとした複合施設。広々とした敷地内に花いっぱいガーデンにほどよく配置された観光施設。本市の道の駅構想の参考にしたい。

★民間活力

Par k-P F I方式で、カフェ・レストラン・売店・子どもの遊び場の公募対象に活用していることは評価できる。

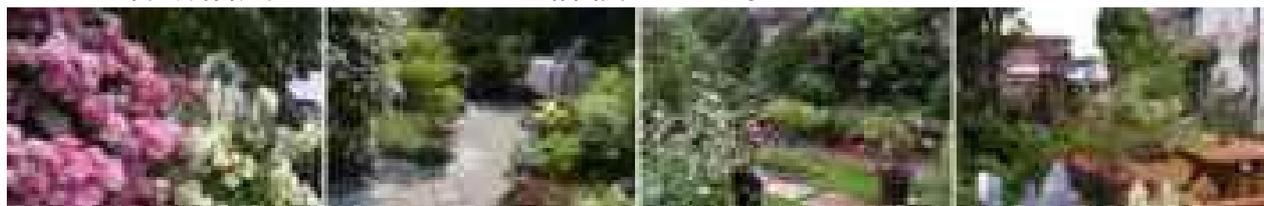
《考察》

★オープンガーデン

市街のオープンガーデンを本市も実施できたら、歴史ある二の岡・東山地区を筆頭に地域の活性化になると考える。

★防災拠点

「はなふる」は、広々とした敷地のため、防災拠点や地域交流地点としても有効活用していることは評価できる。



恵庭市のオープンガーデン

出典：恵庭市

後期 視察先及び視察内容

1. 神奈川県厚木市
厚木市第2次スポーツ推進計画について
2. 神奈川県秦野市
秦野名水の活用戦略について

参加者

委員長 林 義浩

副委員長 小林 恵美子

委員 黒澤 佳壽子 辻川 公子 杉山 護 高橋 利典 永井 誠一

当局 環境市民部長 南 美幸 産業スポーツ部長 鎌野 晃

事務局 主幹 桐生 守 副主任 浅子 菜美



出典：厚木市

神奈川県厚木市（10月19日）
厚木市第2次スポーツ推進計画に
ついて

《目的》

厚木市は「あつぎスポーツ王国」
を実現するために第2次スポーツ
推進計画を策定。本市のスポーツ
行政の参考とする。



出典：厚木市

第2次厚木市スポーツ推進計画は、基本理念を「スポーツで心がふれあう都市（まち）あつぎ ～スポーツ王国を目指して～」としている。

この計画は、60施策の概要から市民のスポーツ活動を推進するもの。スポーツ推進を、「する」「みる」「支える」「広げる」の4つに分けてある。

①「する・みる」は、みんなで楽しめるスポーツ活動の推進

- ・地域によるスポーツ活動の推進
 - ・健康・体力づくりの推進
 - ・子どものスポーツ活動の推進
 - ・障がい者スポーツの推進
- などにより、スポーツ活動の機会の提供を実施している。

②「支える」は、スポーツ活動を支える仕組みづくり

- ・あつぎスポーツアカデミーの推進
- ・スポーツボランティアの育成・活用
- ・スポーツ医・科学の導入

また、大会運営、企画、計画、新規スポーツの提案などを実施している。

③「広げる」は、スポーツ活動を広げる環境づくり

- ・スポーツ施設の充実を図る。（公民館への体育施設併設やハイキングコースの設置、企業・大学施設の活用等）
- ・情報提供（スポーツ関連情報総合ポータルサイトをはじめとする情報発信）

これらの取り組みは、基本目標の数値化で管理している。その目標値は、成人の週1回以上のスポーツ実施率を令和元年40.6%から令和8年65%以上とし、国民体育大会の神奈川県代表選手のうち厚木市から選出される選手の割合を令和元年4%から令和8年10%以上とし、公共スポーツ利用者数を令和元年約153万人から令和8年180万人としている。

なお、平成19年に厚木市スポーツ推進計画を策定して以来、確実にスポーツ参加率は上昇している。

【具体例】

- ・スポーツ医科学セミナーの実績では「スポーツ傷害の予防と筋力トレーニング」「初心者向けのテーピング法」など年に1～2回実施している。
- ・ぼうさいの丘公園にスケートボード場を新設。市民からの要望で、騒音が問題にならない住宅地から離れた場所を選んだ。
- ・「スポーツなじみDAY」を年3回実施し、ボッチャ・モルック・Tボール野球・グランドゴルフなど新しいスポーツを紹介している。
- ・スポーツボランティアは登録制で、登録者は19名。その他、大会ごとにボランティアを募集している。
- ・あつぎマラソン、駅伝など大きな大会を招致している。

ぼうさいの丘公園

（スケートボード場）にて



《考察》

①広い裾野と超プロまで

子どもや初心者から超プロまで裾野を広く捉え、スポーツ振興の底上げをサポートしていることを評価する。

②わかりやすいスローガン

「スポーツ王国厚木」が知れ渡っているので、公民館での体育館利用がとても多く、地域コミュニティからスポーツへの取組が多いため市民参加率が高い。本市も、分かりやすいスローガンで市民から盛り上がるようなフレーズにしたい。

③新しいスポーツの提案

常に新しいスポーツを提案し、参加率を上げる姿勢は評価したい。

④スポーツ医・科学の導入

スポーツ推進審議会委員の医師などから指導・助言を受けたり、セミナーを開催するなど画期的であると評価する。

《考察》

⑤子どものスポーツ活動

学校や公園など身近な場所で、外遊びの推奨や自然を活かした遊び体験の機会の提供やスポーツ活動の推奨などの実現により、子どもの体力向上のみならず地域愛、郷土愛が育まれると考える。

⑥部活動配置事業の改善や充実

教育の長時間勤務の改善や技術的な指導及び生徒引率などが可能な部活指導員の配置は本市も考えるべきである。

⑦合言葉

ウォーキングなどをはじめ「いつでも・だれでも・どこでも・いつまでも」を合言葉に、スポーツを気軽にできるように発信することも重要と考える。（ウォーキングも立派なスポーツ）

その他

本市はグリーンツーリズムとスポーツツーリズムの連携を検討中。

神奈川県秦野市（10月19日） 秦野名水の活用戦略について

《目的》

「名水百選」に選ばれ、おいしさが素晴らしい名水日本一になった秦野名水。本市も富士山の伏流水があることから、水についてのPR戦略などを学ぶ。



全国1位に選ばれた「おいしい秦野の水」



「秦野の名水」ロゴ



出典：秦野市

①地下水保全条例

- ・ 条例では、地下水を市民共有の財産（公水）として市民事業者と市役所が協同で保全活動に当たっている。

②「秦野名水の活用戦略」を令和2年12月に制定

- ・ 秦野名水のブランド力向上を目的に目標（指標）を策定
 - ・ 市の地下水や水道水を名水と指定
 - ・ ブランド化を図るため「秦野名水」のロゴマークを作成
承認件数は令和4年度目標件数130件を上回り、151件となる
（例）実朝漬け・お弁当・豆腐や特産品のPRなどにも使用
 - ・ 秦野ブランド（水）認証品売上額の
令和4年度目標値4,500万円のところ約3,250万円
- ※水道水をボトルドウォーターとして販売
※ロゴマークには使用基準がある。



③「秦野名水名人講」

- ・ 秦野名水名人を認定
- ・ 「秦野名水さんぽ」における補助説明
- ・ ステップアップ講座によるスキルアップ
- ・ 「モニターツアー」「名人会議」での意見交換
- ・ 令和4年度目標値20名のところ34名
- ・ 幼小中生に対し、はだのエコスクールとして「名水紙芝居」「利き水」などを実施

課題として、地域特性を活かしたストーリーを与えることが重要
費用対効果を考慮しながら湧水施設の整備を検討
認知度を上げるため、SNSなどの活用を
広めていく。とされていた。

その後、市内にある「兵庫の泉」に実際に出向き、
見学及び地元の方と話をした。



兵庫の泉にて

《考察》

本市の名水利活用の戦略的施策は不十分である。

名水の利活用は、環境・観光・地域の活性化・経済面と多岐にわたり、
本市にメリットをもたらすと確信する。

「使う・守る・育てる・伝える」を活発に行っていることは、本市でも
水を活かした地域活性化となると考える。

★マップの作成

本市には、たくさんの伏流水・湧水があるためマップの作成を検討
したい。

★ストーリー化

各地区の伏流水・湧水にまつわる物語・昔話・伝説などを整理し、
ストーリー化したい。（各地区の伏流水・湧水の成分表の掲載含む）

★環境学習事業の取入れ

エコスクールによる幼保小中学校等で水について考える機会の創出を
検討したい。

《考察》

★商標登録

富士山伏流水登録商標「表富士伏流水」や「御殿場名水（水道水）」など、ロゴを含めた登録を検討したい。

（使用にあたっての基準や使用料の規定）

★地下水の保全

地下水の保全のため、乱開発の防止や外国籍企業による取得防止などを検討したい。

★名人の認定

伏流水・湧水・名水名人の認定を検討したい。

★販売

ボトルドウォーターの販売（小売・卸）や名水を使った商品の開発を検討したい。

ご清聴ありがとうございました